

第8回 第3次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会概要

《会議概略》

日時 平成28年2月22日（月）13時30分～15時40分

場所 清瀬市コミュニティプラザ202室

出席 赤川都 岩崎雅美 内山勇 大久保由里 小川和夫 小俣みどり 小山利臣
兼田則子 木下八重 佐竹治男 菱沼幹男 丸山安三

欠席 近藤優美 田上明 麦倉稔

事務局 森原弘成 土金百合子 波澄守 星野孝彦 富田千秋
社会福祉協議会実習生2名

1. 開会

社会福祉協議会会長より

2. 第7回策定委員会の議事録について

- ★ 資料番号1「第7回清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会概要（案）」の議事録内容について事務局より説明
内容に異議なく承認される。

3. 計画書素案について

- ★ 資料番号2、3、当日配布資料1に基づき事務局より説明

委員長 では委員の皆様よりご意見をいただきたい。

委員 小地域の考え方について、2 ページで小地域の区分イメージが出ているが、イメージが分かりにくい。例えば、小地域アンケートではどこまでの範囲でアンケートを取るのかなどが分かりにくい。自分たちの地域というのも人によって変わってくるだろう。どこを主体としていくのか分かりにくい。

地域福祉コーディネーターや生活支援コーディネーターについて、あまり説明がないので分かりづらい。おそらく、既存サービスで対応できない所をつなげたり、制度の対象外となってしまう人が必要としているサービスをつくらないといけないとき、中心となる重要な役割を担うのが地域福祉コーディネーターなのではないか。そうだとすると、32 ページにある輪をつなげている人が地域福祉コーディネーターなのではないか。地域福祉コーディネーターがいるからこそ、今ない関係が繋がっていくのではないだろうか。

17 ページの（2）地域活動に関わるサポーターづくりにもあるが、ここでの地域単位というのは、元町や上清戸等の地域の事をいっているのか分かりにく

い。19 ページをみると、小地域福祉推進組織とあるがどういうものをイメージしているのか分かりにくい。また、下宿や竹丘や野塩などの地域はサポーターになる人がいないなど地域の課題がはっきり出ている。それを分析したものはないのか。それによって小地域推進組織というのも変わってくるのではないか。

19 ページの福祉共育の中にある「知らせて学べた」というところが分からない。

副委員長 大事なところを指摘いただいた。住民も分かりにくい所かと思うのでうまく修正できるとよい。

まず2 ページの地域のとらえ方について、「小地域の区分イメージ」となっているが、ここは、小地域というのはどれぐらいの範囲なのか、というイメージを示すところ。市全域が入っているから少し分かりにくくなっているが、小学校区から中学校区の円卓会議を発展させていって、様々な人が周りで交流して支えていくような組織になっていけばよいのではないか。いろいろ議論してきた中で、現状では、エリア設定を明確にしていくところまでは難しい。ただ、どのくらいのエリアなのか分かりにくいので、「小地域ごと（概ね小学校区から中学校区程度）」としてはどうか。実際は、地域の状況によってやりやすいエリア設定をしていけばいいのではないか。

地域福祉コーディネーターの位置づけについて、生活支援コーディネーターとの違いは何か。生活支援コーディネーターは、介護保険法の改正による要支援の高齢者や一般高齢者を支える仕組みをつくる専門職で、個別支援はやらない。ただ、高齢者だけを支える地域ではよくない。高齢者の方を含めて地域の方を支えることができる仕組みをつくり、地域の助け合いをつくる人になる。一方で、地域福祉コーディネーターというのは、地域づくりを一部担うが、既存の専門職では対応が難しいような狭間の問題や横断的な連携のサポートなど個別支援をやっていこうという専門職と整理するとよい。

32 ページの図が示す輪は小地域ごとの助け合い組織であって、地域福祉コーディネーターはこの輪の中に入るよりは、社協の中に入った方が良く、地域の助け合いをつくるという意味では、生活支援コーディネーターも社協の中に入れておく必要がある。社協がバックアップしていくというイメージになる。ただ、この輪を小地域の組織ととらえて表現するのか。社協とはということだとこのような表記にとどまってしまうのではないか。

事務局 2 ページ小地域の図について、市全域は小地域ではないだろうが、自治会から中学校区あたりがこの計画でイメージしている小地域になる。例えば、小地域アンケートはどのような区分でやるのかについては、この計画書の中でははっきり示せないが、地域の人と社協と一緒に地域づくりに取り組んでいく中で、円卓会議と一緒にしましようとなるかもしれない。

また、地域の課題が明らかなのに、改めてアンケートをするという意味について、担い手の問題など地域による差がみられることも事務局では感じている

ところではある。すぐに取り組んだ方がよいという課題があることも確かだが、まずは、専門職も含めた地域のいろいろな人が、地域のニーズを共有しながら小地域でのプラットフォームを作っていくところをこの計画の柱としていきたい。これとは別に、地域の中での人材づくりなどの課題にも取り組んでいきたい。

19 ページの「知らせて学べた」という表記は、過去形になっているので、表記は改めたい。福祉共育についての考えを今一度整理する必要があるが、一見教える立場にある人たちもともに知らせ合い、学びあうという意味合いに整理したい。

また、地域福祉コーディネーターや生活支援コーディネーターについては、基本目標の中では設置していくと示しているが、分かりづらいので、もう少し特化した説明が必要と考えている。ただ、32 ページの輪は現状の社会福祉協議会を説明するものなので、地域福祉コーディネーターや生活支援コーディネーターの関係性を説明するものとなると、取組みのイメージ図で説明が出来ればと考える。

委員長 地域福祉コーディネーターや生活支援コーディネーターについて、この計画を見る市民は理解が難しい。市民の立場で理解ができるようなものが必要だろう。

委員 19 ページのささえあいサポーターは「地域ささえあいサポーター」に直したほうが良い。20 ページの(3)④の説明文中に「ほか」が重複して使われているので、直したほうが良い。また、概要版の1 ページ目の下に、「社会福祉っていうと」と表記されているが、「社会福祉っていうと」に直したほうが良いし、「あなた自身もそうなるときがあります」と断定するのではなく、「そうなるかもしれません」としたほうが良い。概要版2 ページ目の真ん中あたり、西暦が記載されているが、全角と半角が混じっているのでどちらかに統一したほうが良い。基本理念のサブタイトル中「目指して」が、漢字の部分とひらがなの部分があるのでどちらかに統一したほうが良い。

事務局 もともとひらがなで表記をしていたので、ひらがなにしていく。

委員 概要版では、例として具体的な取組みの一部が書かれてあるが、スペースの関係で取組みを絞り込んでいるのかと思うが、取組みや文言は割愛せずに見てもらったほうが良い。また、最終ページに社協の住所等が記載されているが、ここにホームページもあったほうが良いのではないかと。

事務局 訂正していく。

委員 概要版2 ページ目のイラストの印象が怖いものがある。絵やイラストはイメージで伝えるものなので、変更をしたほうが良い。またイラストに統一性がないので雰囲気は統一をもたせたほうが良い。

委員 概要版2 ページ目の吹き出しの中「将来、障害を持つ子の」の将来はいらぬのではないかと。

委員 概要版 3 ページ目の具体的な取組みが書かれてあるところだが、効果が書かれてある場所が目標毎に違っている。スペースの問題かもしれないが、やることをやっての効果だと思うので、取組みの下のスペースにあった方が良い。

委員 概要版について、福祉共育は造語なのでその説明があった方が良い。
事務局 入れていく。

委員 概要版のクローバーは、世田谷区の四つ葉のクローバープロジェクトというものとかぶってしまうので、別のものにした方が良い。

副委員長 計画書の 5 ページで、重点目標と書かれてあるところは「重点プロジェクト」と統一した方が良い。8 ページの「福祉共育につながる学び・交流・体験の場づくり」は重点プロジェクトに当たるので、表記を工夫できないだろうか。15 ページについて、「支援を必要としている人の理解をすすめます」という取り組みの方向性に重点の印がついているが、そのほかの重点の印は具体的な取組みについている。統一を持たせた方が良いだろう。

17 ページの福祉共育の場づくりの説明文の中に「排除する人を出さずに」とあるが、「社会的に排除される人を出さない」などとした方が良いのではないか。また、行政の地域福祉計画との連動性もあるので、10 ページの下の図、社協の隣に行政を入れた方が良い。社協がどのような組織なのかわからない人もあるので、32 ページの社協の説明の中に「社会福祉法に基づき」と入れる。また、10 ページでは「地域活動に関わるサポーター制度づくり」とあるが、17 ページでは「サポーターづくり」となっているなど、用語が統一されていないので、整理してほしい。

全体的にはコンパクトにまとまっているので良いと思う。

委員 10 ページの地域福祉コーディネーターの内容だが、「既存のサービスの対象外となってしまう困りごとを抱えている方一人ひとりに寄り添った」とあるが、その人一人にあった生活支援をするという意味なのか。

委員 たとえば、ゴミ屋敷に住んでいる方は既存の制度から漏れているところかと思うが、その人の生活環境をどう立て直すか一緒に考えたり、あるいはメンタルなサポートをする等いろいろなかかわり方ができる。

委員 「地域の様々な機関と協力しながら地域の課題解決に向けた活動を推進する」というのは、改めて作るということなのか。既存のサービスがないから寄り添えないのであって、その人に寄り添えるサービスを推進するという事でよいのか。埋もれている人の支援が課題となっていたが、それを活動として作って、ささえあいサポーターと推進していくというイメージでよいのか。

副委員長 地域福祉コーディネーターは個別の支援と地域の支援の両方があるので、それをどう表現するのかという事だろう。個別の支援の場合には、他の専門職ができる場合にはそこをお願いして、狭間の部分は話を聞いたりするが、自分だけで解決するのではなくて、その人を支えられるような仕組みをつくっていく意味での地域支援になる。この辺は、用語の説明の文章をどう書くかにも関わ

ってくるので工夫ができるとよい。

委員長 生活支援コーディネーターと地域福祉コーディネーターの違いをはっきりと分かるようにする必要があるだろう。清瀬にはまだいない専門職で、これから作っていかうというもの。

委員 子育て関係でも、子育て支援コーディネーターを各広場に作るとなっているが、地域福祉コーディネーターは子育てもすべて含むのか。

委員長 子育てもすべてが対象になる。

委員 10 ページについて、地域の連絡会や学習会の実施が取組みなのに、内容は分野を超えたとなっている。この取組みをするのに分野を超えた地域の支援者や専門機関が学習会を提供するという意味なのか。

事務局 小地域という意味と地域全体でネットワークをつくるという意味が混ざっているので、表現を整理しなおす。取組みの地域というものと、分野を超えたという部分はずれがあるので、表現を整理する。

委員 ネットワークをつくるというのに対して、学習会を実施するというのは合わないように思う。

事務局 学習会だけではない。

委員 課題を共有するときに、民間組織の方が地域の課題が分かっている先行している場合もあるので、これだけだと意味合いが違ってきてしまうのではないか。

4. 計画の進行及び評価の方法について

★ 当日配布資料2に基づき事務局より説明

委員 進行の評価と聞いて、数値も期限も話をしないでできてしまったのではないかという思いがある。これをどう評価していくのか。今更だが、数値と期限をどう組み込めばよいか。

事務局 最初の素案を作る段階から、数値や期限を表記しない形をとってきた。推進委員会を設けていくので、その中で諮りながら評価していきたいと考えている。例えば、福祉推進組織についても福祉共育についても、来年度から事務局では様々な取組みを考えて着手していきたいが、区割りや形など具体的にはまだ描き切れていないところもある。進め方や進捗状況、地域とのかかわり方などもご意見をいただきながら、地域と取り組みを進めていく必要があると考えている。

副委員長 評価をどうするかはとても大事なところ。静岡の袋井市などは100くらいの数値目標を立てているが、担当も数値目標の達成ばかりに目が行ってしまう事もあると言っていた。また、根拠なく数値目標を立ててしまっているところもある。計画の評価は、何を何回したかというアウトプット評価と、その結果の成果と課題を評価するアウトカム評価というものがある。数値目標を出しているところはアウトプット評価だけをしてしまいがちだが、その成果と課題を

しっかりととらえることが大事。何に向かってどのような方向性で進んでいるのかという事と合わせて、成果と課題について担当者として何を感じているのかを事務局で資料化してくれると議論が進むのではないかな。

委員 32 ページについて、私自身もこのネットワークの 4 つに所属しているが、たとえば老人クラブにしても、高齢者が増えている割には入会する人が少ないなど問題を持っている。既存の団体についても、社協がもう一度目を向け、一緒に動いていただきたい。

委員 重点プロジェクトの 3 つの取組みは、福祉共育は場所、ささえあいサポーターは人、小地域ごとの福祉推進組織は組織となるだろうが、全地域一度にできるかもしれないが、やはり取組みの地域差が出てくるだろう。一つ一つの項目について、短期・中期・長期のどのスパンで行くのか考えていってもいいのではないかな。また、18 ページの「小地域ごと」は「小地域ごと」と語句の間違えではないかな。

あと、概要版は一番市民の目に触れるものなので、4 ページ目の一番下の欄に「あなたの声をお待ちしています」と入れてもよいのではないかな。

委員 委員会の当初で議論した地区社協は、基本目標 4 の小地域ごとの福祉推進組織に含まれているのではないかなと思うが、社協が何をやったらどう評価できるのか分からない。例えば、地区社協のモデルケースを少なくとも 2 年後までに一つ作る、何年後までに市全域に作るなどの具体策はどこで作っていくのか。スケジュールも含めて確認したい。

事務局 小地域ごとの福祉推進組織は、地区社協とほぼイコールと考えている。これだけだと分かりにくいので、出来るだけ早期に、もう少し分かりやすい考え方を示していきたいと思っている。また、目標については社協職員として持つておくべきだと考える。この計画書の中では示し切れなかったが、たとえば来年度一地区でも二地区でも着手に取り組むなどの目標としたい。

副委員長 3 つのプロジェクトを進めるにあたって特別委員会のようなものを社協の中に設置していくのも案かと思う。例えば、福祉共育としてどういった取組みを進めていく必要があるのか、どういう内容で進めていけばいいのかといった具体的なことを整理したり、小地域として最初にモデル地区として設定していく可能性がある地域はどこかなど、進めていく方向性を具体的に決めていく委員会をつくるというのも方法の一つではないかな。今回の計画では、そこまで具体的に踏み込めていないので、そこを補完する意味合いも含めて、推進委員会の中に部会をつくるという発想でも良いかなと思う。

委員 この計画の中には、私たち社会福祉施設がやっていることはどこだろうか、こういった活動ができるかもしれないなどのヒントが入っている。社協のこの計画の中で、自分たち社会福祉施設がかなり中心的にやっていかないといけないというのも分かってきた。一市民がこの計画を読んで自分の地域で何かつながるものと思った時に、小地域の地図があつたりすると分かりやすいのでは

ないか。いろいろな活動をしている人たちやこれから活動しようとしている人たちにつながってくるとよいと思う。

委員 概要版 4 ページの「あなたにできることはありますか」の欄だが、支援をする立場にある人の項目ばかりになっている。この概要版を多くの市民が見るのであれば、支援をする立場にある人だけでなく、される立場の人も見るだろう。助けを必要としている立場の人は何もできなくなってしまうのではないか。例えば、「早く休んで体力をつける」「社協のホームページを見てどこに支援があるか探す」など、困っているところから抜け出すための提案も盛り込まれているとよい。

委員 できることがありますかという表現だけではなく、あなたがやりたいことがありますかという表現と両方があるとよいのではないか。

また、評価について、3 ページに第 2 次計画の成果と課題が出ているが、この課題について、たとえば居場所づくりの取組みは広がっているが、公共施設以外に地域活動を行う場所が不足し、気軽な交流の場づくりの障壁となっているとあるので、公共の場以外の場所が増えるなど、課題をクリアしていくのが評価につながるのではと考える。

委員 実際に目にする人がどれくらいいるのかが分からない。私自身も第 2 次計画を目にしたことはなかった。子どもが小さい世代は、バタバタとしているので目にする機会は少ないのではないか。

委員 概要版を市報と一緒に配布することはできるのか。

事務局 できないと思う。市報にも計画ができたことを掲載依頼していく予定。

5. その他

事務局 本日出された意見を基に、委員長、副委員長と最終まとめを行い、会長あて答申書をいただきたい。また、社協だよりも掲載していきたい。印刷済みの計画書の配布ができるのは 4 月明けになる予定。

6. 閉会

社会福祉協議会常務理事より